

東京海洋大学海外探検隊について

平成24年度文部科学省グローバル人材育成推進事業における取組みの一つとして、平成25年度に第1期をタイ・シンガポールへの派遣から始まった。その後、派遣国を増やしつつ、平成30年3月時点では第10期生となり派遣者数も200名程度に達している。なお、本派遣は、通常の語学留学とは違い、アジアなどのグローバル企業での研修、トップ大学での研究活動などを1ヶ月程度行い、各地でその成果を報告している。

海外派遣キャリア演習プログラム「海外探検隊」への参加を通じ、学生は以下に掲げる目標の実現を目指すこととする。

- ・幅広い分野に関心を持ち、将来イノベーションを起こせる人材になることを目指す
- ・異なる価値観や世界観などの多様性を受容し、良好な人間関係を構築する方法を体験学習する
- ・グローバルに活躍する社会人と交流し、社会常識やマナー、グローバルマインドを学ぶ
- ・海外生活や異なる環境に適應する能力及び技術を獲得する
- ・英語や現地の言語を使って意思疎通を取り、総合的なコミュニケーションスキルを高める

第1期～第10期において、海洋工学部から20名程度の学生が参加している。

これまでに多くの海洋工学部学生が参加し、さらに各隊でリーダー、サブリーダーを務めている。

派遣にあたっては、原則TOEICスコア600点以上としているが、未受験等でスコアを保持していない学生は、TOFEL等のスコアの提示を求めている。ただし、スコアが低い等で原則を満たせない場合、探検隊ブートキャンプ（第11期海外探検隊から開始）に参加し、渡航前までに英語力向上を目指す。具体的には、英語学習の計画作成、外国語教員により英語研修、英語学習アドバイザーのカウンセリング、TOEICIP試験の受験等を行う。

【渡航前研修】

- ・プログラム担当教員によるビジネスマインド研修
- ・危機管理セミナー（海外留学生安全対策協議会から講師を招聘）
- ・プログラム担当教員による英語プレゼンテーション研修
- ・外国人教員による英語コミュニケーション研修
- ・社会人交流研修（民間企業のビジネスマンを招聘）

【単位の取り扱い】

- ・1回目海外探検隊参加 ⇒ 長期学外実習（海外）
- ・2回目海外探検隊参加 ⇒ 海外派遣キャリア演習Ⅱの他学部履修

第12期海外探検隊の参加に向けて(予定)

平成30年10月 公募開始（越中島地区での説明会あり）
平成30年11月 書類選考、面接審査により派遣者決定

【派遣先及び派遣期間】

アジアを中心に6か国程度とし、各国の企業、大学で研修を行う。3～4年生を対象としたプログラムではあるが、やる気のある1～2年生は参加可能です。

平成31年2～3月の1か月程度

【派遣者人数等】

1か国あたり4名程度

海洋生命科学部、海洋工学部、海洋資源環境学の混成チームとする。※他学部（他学年）と合同で研修を行うことは、本プログラムの特徴である。

【参加者の声】

異分野での研修は、自身の知見を広げることにつながった。

【平成30年夏派遣（第11期海外探検隊）】募集締め切り

<キャリアプログラム> ※主に企業活動に参加する研修

- ①シンガポール：
観賞魚養殖企業の企業研修、
シンガポール国立大学熱帯海洋科学研究所の研究室研修

- ②中国香港
日系食品企業の企業研修、
香港大学太古海洋科学研究所/食品学科の研究室研修

- ③ベトナム
日系食品企業やローカル資本水産商社の企業研修、
ハノイ工科大学食品学科の研究室研修

<リサーチプログラム> ※大学（研究室）で研究活動する研修

- ④台湾
台湾大学海洋研究所の研究室研修
- ⑤タイ
チュロンコン大学食品理学部の研究室研修
プラパ大学海洋科学部の研究室研修

<バリューチェーンプログラム> ※水産食品等のバリューチェーンを学ぶ研修

- ⑥中国杭州
日系小売企業における企業研修



【派遣に伴う経費負担について】

過去の実績から滞在期間中の必要経費（交通費、ホテル代、食事代）を算出すると、（独）日本学生支援機構の奨学金のほか、東京海洋大学海洋工学部国際交流基金等からの渡航費用等の一部支給により、学生の自己負担は、派遣国によって金額の差はあるものの、約1か月の滞在に対して10～15万円程度となっている。

【第10期海外探検隊（平成30年2～3月）】

派遣国	期間	派遣先機関	派遣者		
			学部	学科	年次
ノルウェー	2/22 - 3/12	ノルウェー食品・漁業・水産養殖研究所	海洋科学部	海洋生物資源学科	3
			海洋科学部	食品生産科学科	3
			海洋科学部	食品生産科学科	3
			海洋資源環境学部	海洋環境科学科	1
台湾	2/22- 3/18	国立台湾大学、国立海洋科技博物館	海洋工学部	海事システム工学科	3
			海洋科学部	海洋生物資源学科	2
			海洋工学部	海洋電子機械工学科	1
			海洋生命科学部	海洋政策文化学科	3
タイ	2/24 - 3/21	チュラロンコン大学、プラパ大学、味の素、タイユニオン	海洋生命科学部	海洋政策文化学科	3
			海洋生命科学部	海洋政策文化学科	1
			海洋生命科学部	食品生産科学科	1
			海洋生命科学部	食品生産科学科	1
			海洋生命科学部	食品生産科学科	1
香港	3/3-3/29	香港大学、ヤクルト、アモイフード	海洋科学部	海洋政策文化学科	2
			海洋生命科学部	食品生産科学科	1
			海洋生命科学部	食品生産科学科	1
			海洋工学部	海事システム工学科	2
中国（杭州）	3/19-4/1	AEON杭州	海洋科学部	食品生産科学科	3
			海洋生命科学部	海洋政策文化学科	1
			海洋科学部	食品生産科学科	2
			海洋生命科学部	海洋生物資源学科	1
シンガポール	3/11- 4/4	シンガポール国立大学、QianHu、ApolloAquacultureGroup	海洋工学部	流通情報工学科	2
			海洋科学部	海洋環境学科	2
			海洋資源環境学部	海洋環境科学科	1
			海洋生命科学部	海洋生物資源学科	1

私はVianney先生と三木先生の2つの研究室に配属され、サンゴの機能性についての研究をしました。人工知能(AI)を使うことで膨大なサンゴの機能性別のデータをより効率よく高精度で分析することが研究テーマでありました。3週間という短い期間の中でプログラミングの基礎、サンゴの勉強、そして上に述べた研究を進めていきました。

機能性ごとにサンゴを約30個に分類する作業や集めたデータを多変量解析を行いグラフで表すなど、この分野の研究はとても新鮮なもので興味深いものでした。

英語での慣れない環境の中で大変なこともたくさんありましたが、先生方が丁寧に説明して下さった、周りの院生のサポートで乗り切ることができたと思います。台湾隊は個々での行動が多かったので自分から積極的にルームメイトや院生に話しかけることで、新しい人間関係を築け、コミュニケーションのを広げることができました。勤勉でユーモアにあふれている彼らとの生活は刺激的で毎日が発見にあふれとても充実したものになりました。

台湾大学で学べたこと、そして関わったすべての人に感謝し今後の生活に生かしていきます。



杭州での生活にも慣れてきました。楽しさが増しますと共に、毎日が驚きの連続です。昨日、プレゼンの大まかなテーマ案が決定しました。これからチームで協力して、具体化していく予定です。

本日は、AEONでの研修プログラムが始まってから初めて、私達4人だけで最終プレゼンに向けた調査を行いました。午前中は杭州AEONを訪れ、調査を行いました。建物の構造や、テナントの見方など、昨日までに岡岡さんに教えていただいたことを参考に、改めて自分達で考察しました。

午後からは、杭州AEONの競合店である西田城を再訪し、比較調査を行いました。杭州に来るまでは、モールの違いなど、考えたこともありませんでした。しかし、今ではすっかり、その奥深さに魅了されています。チーム内での情報共有も順調なので、いいプレゼンができるように頑張りたいです。

